

沖縄鋳鉄工業株式会社

沖縄県中頭郡西原町

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

県内唯一のマンホール製造メーカー。 マンホール鉄蓋で資源循環型社会づくりに 貢献

- デザインマンホールを日本で初めて製品化し、コスト競争に陥ることなく独自の技術に地域独特のデザインを付加して価値を高めた
- 地域ニーズに対応した生産性・付加価値の高い小ロット生産を可能にした
- 環境関連企業としての意識、品質管理意識、最新設備の導入などに率先して取り組み、経営基盤の確立を図っている

企業基本情報

所在地	沖縄県中頭郡西原町小那覇 958
電話/FAX	098-945-5453/098-945-5924
URL	—
代表者	代表取締役 眞志喜 実
設立	1973年
資本金	4,500万円
従業員数	35人



会社概要

上下水道用鉄蓋、電気・通信用鉄蓋、鋳鉄製グレーチング、機械部品、銘板、公園緑地付帯設備等の鋳物製品の他にリサイクル資材として再生プラスチック製品を製造。売上比率は鉄蓋関係が90%、鉄蓋以外の鋳物製品やプラスチック台座などが10%。一方、県内売上げは55%、県外が45%となっている。なお、2016年には、最新設備に入れ替えたことにより生産性を高めた。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶「デザインマンホール蓋」を国内で初めて製品化

1972年の復帰を境にあらゆる分野で県外製品が流入し、小規模でコスト高なマンホール鉄蓋も県外製品との競合で不利な状況下にあった。これまで蓋の表面は量産化で画一化された幾何学的模様の単なるタイヤの滑り止めの機能から、様々な模様が描かれた「デザインマンホール蓋」を国内で初めて製品化し、コスト競争に陥ることなく地域独特のデザインを付加して価値を高め、競争力のある多品種小ロットのマンホール鉄蓋の生産技術を確立した。



デザインマンホール那覇市

▶▶▶付加価値の高い小ロット生産により、売上げや収益性が向上

ビジネスモデル上下水道マンホール鉄蓋は機能だけが求められ、コスト競争に陥りがちだったが地域の文化や歴史、伝統品や行事などのイメージをデザイン化し差別化したビジネスモデルにしたことでコスト競争に巻き込まれることなく、地域ニーズに対応した付加価値の高い小ロット生産が可能となった。

小ロット生産に対応した研究、設備導入により競争力は高まり、売上げ、収益性も向上し県内シェアは90%以上と安定した経営となっている。また、販路も県内1/3、県外2/3の比率となっている。



自動造型ライン

▶▶▶県内シェア90%で安定経営を実現

県外企業との競争がある中で、ITを活用した模型制作技術開発により独自の技術を確立し、製品の差別化により県内シェア90%で安定経営を実現。また、鋳物は金属リサイクルの静脈産業としても重要な役割があり、県内で発生する鉄系スクラップを利用。県産品認定とリサイクル資材評価認定資材の認定を受けるなど、環境関連企業としての意識も高い。

また、取引先の信用確保と品質維持のためISO9000を取得、最新設備の導入などに率先して取り組み、経営基盤の確立を図っている。



自動造型機